

第6回議会報告会を開催しました！

平成27年11月2日・4日・5日の3日間にわたって、高梁市内の8会場で「第6回議会報告会」を開催しました。9月議会で審議された決算について報告し、「地域のまちづくりを語ろう」というテーマで意見交換会を行いました。

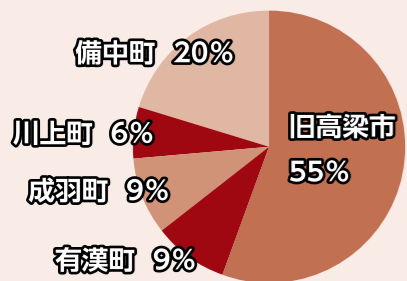


高山会場

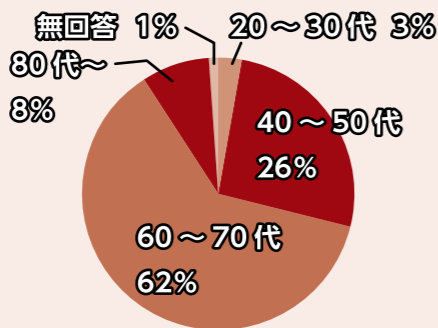


湯野会場

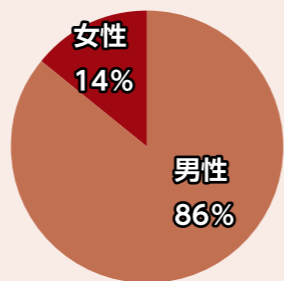
地域



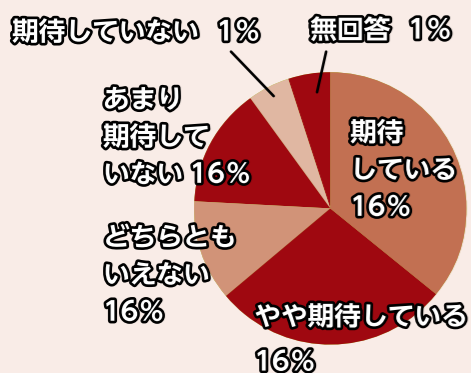
年齢



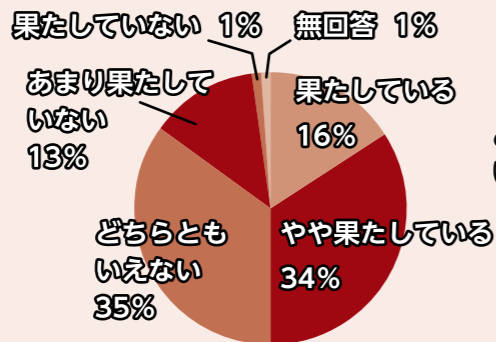
性別



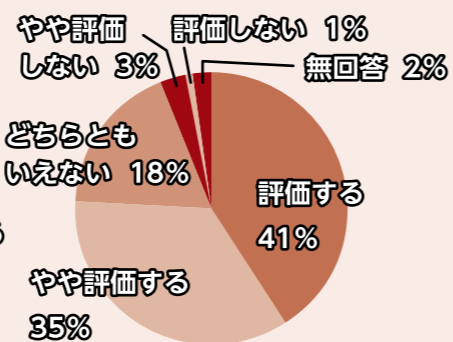
議会への期待



議会の役割



議会報告会を開催したこと



議会改革の一環として開かれた議会を目指して開催

議会報告会は、議会改革の一環として平成25年4月に始まりました。その後も、予算を審議する3月議会、決算を審議する9月議会に合わせて年2回のペースで開催されています。当初は、議決された政策の内容だけを報告していましたが、回を重ねるごとに、地域の問題を把握するための意見交換会に比重が置かれるようになっていきます。

会場も、当初は地域局単位の5会場でした。その後、さまざまな地域の人に参加してもらうために、現在は中学校の校区単位で8会場での開催にしています。

第6回の議会報告会は、11月2日から5日まで、高梁、津川、川面、落合、有漢、成羽、備中、川上の8会場で開催されました。参加人数は延べ209人。86%が男性で、年齢構成では60代から70代が62%と最多になっています。次に多いのが40代から50代の26%で、女性や若年層の参加が少ないことは課題となっています。エリアごとの参加者数を比較すると、4会場で開催されている旧高梁エリアが55%と人的には一番多く、備中町が20%、有漢町と成羽町が9%、川上町が6%となっています。旧高梁市エリアの参加者は「川面会場」や「津川会場」など周辺部に多く、市街地では少ないという傾向が続いています。

地方創生に求められる自治力は 計画を提案し、実行できる力

国は現在「まち・ひと・しごと創生法」による地域創生を進めています。この政策がこれまでと違うのは、国から補助金をもらうためには、地方創生のアイデアを自分たちで考え、提案し、実行し、結果を出さなければならないという点です。そのためには、自分たちの地域の魅力や問題点をしっかりと認識する必要があります。

議会は執行部の政策を精査し、住民の皆さんの意見をしっかりと市政に反映させていかねばなりません。住民の皆さんも正しい情報を知り、市政に積極的に参画していただきたいと考えています。

議会活性化特別委員会では、より多くの方に参加していただくために、常に会場選びや報告会の議事進行について話し合い、変更を加えています。報告会では毎回アンケートを取っています。議会報告会を開催したことについては「評価する」に「やや評価する」を合わせた76%が評価するとしています。しかし議会の情報公開については、「開かれている」に「やや開かれている」を足した数字が50%で、約半数であり、開催は評価している人が少なからずいるということがわかります。

アンケートの声を参考に、今後もよりよい運営を目指します

アンケートの声を参考に、今後もよりよい運営を目指します

今回の報告会で寄せられた意見には「大変よいことだが出席者が少ない」、「多くの市民に参加してもらおうように、PRの方法を考えて欲しい」、「もっと若い世代が関心を持って参加しやすい会になる」とよい、「報告会が出た意見、要望が、その後議会市政にどのよう反映されたのかを明確にして欲しい」といったものがありました。

市民の方から寄せられた意見や提言は、市長へ送るとともに、政策の参考にさせていただいております。過去の議会報告会の記録や、寄せられた意見・提言は高梁市議会のHPから見ることができ、ぜひご覧になってください。